

## 「造られたのではなくて生まれ、

### 父と同質であって」

(ヨハネ 14・8～10)

#### 一、ヨハネの福音書に思う

この度のシリーズ説教を準備するにあたり、聖書箇所を選んだのは私です。その際、ニカイア信条について解説している二つの書物を参考にさせていただきました。結果、礼拝で開く聖書箇所として、ヨハネの福音書が多いことに気づきました。それは、偶然ではないと思います。

ヨハネの福音書は四つある福音書の中で最後に発行されました。ヨハネの福音書は福音書の集大成であるとも言えます。ヨハネの福音書の中に、私たちが必要とする信仰の基礎がたくさん詰まっています。そういうわけで、シリーズの説教「ニカイア信条に聴く」キリスト信仰の源流をたずねて」においては、ヨハネの福音書がテキストになることが多いのではないかと考えております。

#### 二、造られたのではなくて生まれ

ニカイア信条の「造られたのではなくて生まれ」ですが、この言葉は、アレイオス派(アリウス派)を意識した言葉です。アレイオス派は、キリストは神によ

る最初の被造物であると考え、紀元1世紀から4世紀にかけて猛威を振るいました。アレイオス派も聖書の言葉により、イエス・キリストを救い主として信じていました。ただし、この一派にとってイエス・キリストは、神のようなお方であったけれども神ではなく、神によって造られた最初の存在でした。ですが、早くから正典(＝信仰の基準)として認められていたコロサイ書は語っています。(コロサイ1・15～17)御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。(略)御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。と。今日の言葉で言うなら、時間も空間が始まる前に、そして物質とあらゆる命が造られる前に、御子は生まれていました。すなわち、御子イエス・キリストは初めからおられたお方です。ですが、アレイオス派はコロサイ書をかえりみなかったようです。

#### 三、父と同質であって

次に「父と同質であって」を見てまいります。

イエス・キリストとは何ものものなのでしょうか。ざばり、神です。神とは言っても、神々のひとりではなく、唯一なる神御自身です。「父と同質であって」の「同質(ホモウーシオス)」は聖書に登

場しないギリシア語で、ギリシア哲学から来た言葉です。本来なら、聖書に使われている言葉で言い表したかったのでありましょうが、聖書が語る福音に根ざし、アレイオス派を斥けるためには、どうしても「同質」と訳されている言葉「ホモウーシオス」を使わざるを得なかったようです。「ホモウーシオス」の意味は「一つの存在」です。すなわち、御子は、父(である神)と一つの存在であり、ひとりの神なのです。しかし、おひとりなる神の中に、父と御子の区別があるのです。

これが少しでもずれますと、キリスト教会の信仰に似ていながら「別もの」になってしまいますので、要注意です。イエス・キリストは神です。神であるがゆえに、全能なる神であるがゆえに、人として生まれることもできました。全能なる神であるがゆえに、罪という、神の前にずれている状態にある人間一人ひとりの罪を背負って死なれ、私たちがイエス・キリストを救い主と信じるだけで救われる道をつくることができず、もしイエス・キリストが神でなかったら、信じるだけで救われるという教えに信憑性はなく、空しい教えとして消えてしまいます。

では、きょうの聖句を見てまいります。ピリポは語りました。ヨハネの福音書14章8節です。「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足しま

す。」と。すると、イエスはおっしゃいました。9節後半です。「わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。」と。さらに続けて語られました。10節です。「わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたしが自分から話しているのではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。」と。この、主イエスとピリポとのやり取りは、ヨハネの福音書にだけ載っています。おそらく、主イエスが語られた時点においては、ピリポには何のことなのか、さっぱり理解できなかったものと思われま

す。

過越の食事を共にしていた他の弟子たちとて同じでした。しかし時を経て、イエス・キリストが語られた言葉をほぼ完璧に理解したのは教会でした。しかもヨハネが属する教会でした。ここには、三位一体という言葉こそ出てきませんが、その前身となる信仰が彷彿と表れています。

そういうわけで、イエス・キリストこそ神であり、しかも人となられた神であり、父である神を解き明かした仲介者であり、「父がわたしの名によってもうひとりの助け主である聖霊を遣わす」(ヨハネ 14・16、26)、と語られたお方です。